

【内容】 「器械運動クラスマッチ」

4年 器械運動採点基準			
領域	種目	採点基準	得点
とび箱	開脚跳び(縦5段)	・跳び越せない。	0
		・おしりや足がひっかかる。	1
		・スムーズにできるが、足が曲がっている。	2
	・踏み切り・着手・着地がスムーズにでき、足が伸びている。	3	
	かかえ込み跳び(横4段)	・跳び越せない。	0
		・足が跳び箱につく。	1
・前のめりになったり、体が傾く。		2	
・調子よく跳べ、着地も安定している。	3		
マット運動	前転	・前転ができない。	0
		・前転が一応できるがまっすぐいけない。	1
		・開脚前転ができない。	2
	・止まらないでつながりもよくスムーズにできる。	3	
	側方側立回転	・できない。	0
		・側方側立回転がまっすぐいけない。	1
・技は一応できるが小さい。		2	
後転	・大きい技でつながりもスムーズである。	3	
鉄棒運動	後方支持回転	・できない。	0
		・回れるが上半身が起こせない。	1
		・1回転できる。	2
	・連続で2回以上できる。	3	
	前方支持回転	・できない。	0
		・おしい所まで回れるが後一步。	1
・1回できる。		2	
・2回以上できる。	3		

1 「活動内容」



【練習時間・場所の確保】

クラスマッチ前一月間は体育委員が毎朝マット・跳び箱をセッティング。昼休みは曜日ごとに学年で練習。体育の時間の準備、片付け時間も短縮。

【採点基準の作成】

体育部より基礎的な種目からクラスマッチ(跳び箱・マット・鉄棒)の採点基準を提案。各学年で修正。

【鉄棒に子どもが集まる】

練習期間中は子どもたちが休み時間や放課後に練習したり、教えあったりする姿が多く見られる。



2 児童・生徒(保護者)の反応

- クラスマッチ期間以外では低学年の児童数名しか見られない鉄棒に、いろんな学年の児童が集まるようになり、練習を重ねていた。昼休みの体育館も多くの児童が練習に参加していた。

3 成果と課題

- 子どもたちの苦手意識の高い器械運動をクラスマッチにすることで目標に向かってがんばったり、クラスの友だちと教えあったりする姿が多く見られた。
- 学校全体で取り組むことで子どもたち全体の意識が高まるだけでなく、指導を共有することで若い教員の指導力向上にもつながった。
- 毎日の準備・片付けは大変であるが、学校行事等が加わるとさらに大変であった。